

市原地域リハビリテーション広域支援センター 活動報告



市原圏域の医療・介護・行政の顔の見える関係づくり ～ちーき会 症例発表リレー～

所属：医療法人社団 白金会

発表者：豊田 誠 伊藤 俊介 矢部 信之

センターメンバー：中島 理雄 袴田 龍一
近藤 彩由美

地域のつながり
支え合う
支援の輪



ちーき会って？

ちーき会は、当センターの事業で平成25年より、毎月開催している地域の集まりです。

ちーき会は医療・介護・福祉・行政の立場・職種関係なく誰もが参加可能な意見交換会です。市原に住む人が、住み慣れたこのまちで元気にいきいきと生活をするため、地域リハビリテーションの視点から地域のみんなで自由に話し合い、顔の見える関係づくりを進めていきたいと考え開催をしています。



ちーき会とは！

毎月

気楽

協議

をコンセプトに

第一歩として

まずは

**顔の
見える**

**関係
作り**



ちーき会 2019年活動報告

- ・1月25日 23名 「小児連携の会こあらの会の活動報告」
- ・2月20日 34名 「地域包括ケアでの言語聴覚士のトリセツ」
- ・3月28日 73名 「症例発表リレー」
- ・4月19日 36名 「地域リハビリテーションについて考える会」
- ・5月24日 54名 「地域包括支援センターリレー紹介」
- ・6月21日 48名 「8050問題について考える」
- ・7月26日 37名 「住宅改修による在宅介護の課題解決」
- ・8月27日 55名 「地域で考える糖尿病在宅支援セミナー」
- ・9月27日 45名 「またやってみよう!地域分析～台風災害～」
- ・10月25日 **大雨災害のため中止**「フレイル予防への取組」
- ・11月19日 56名 「パーキンソン病に有効なリハビリテーション」
- ・12月16日 30名 「体験しよう! パラスポーツ～ボッチャ編～」



ちーき会 2019年参加実績

延参加者数 491名 参加施設 83施設

歯科医師・薬剤師・保健師・看護師

PT・OT・ST・社会福祉士・管理栄養士

介護支援専門員・柔道整復師・遺品整理士

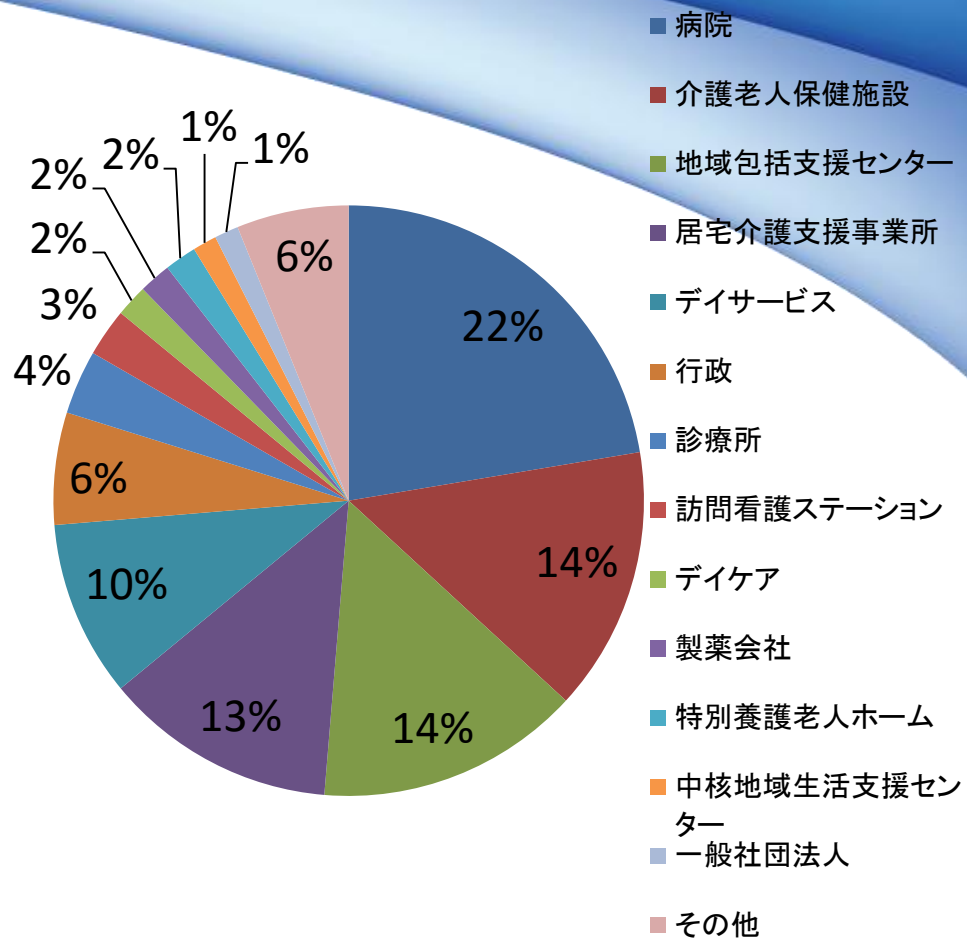
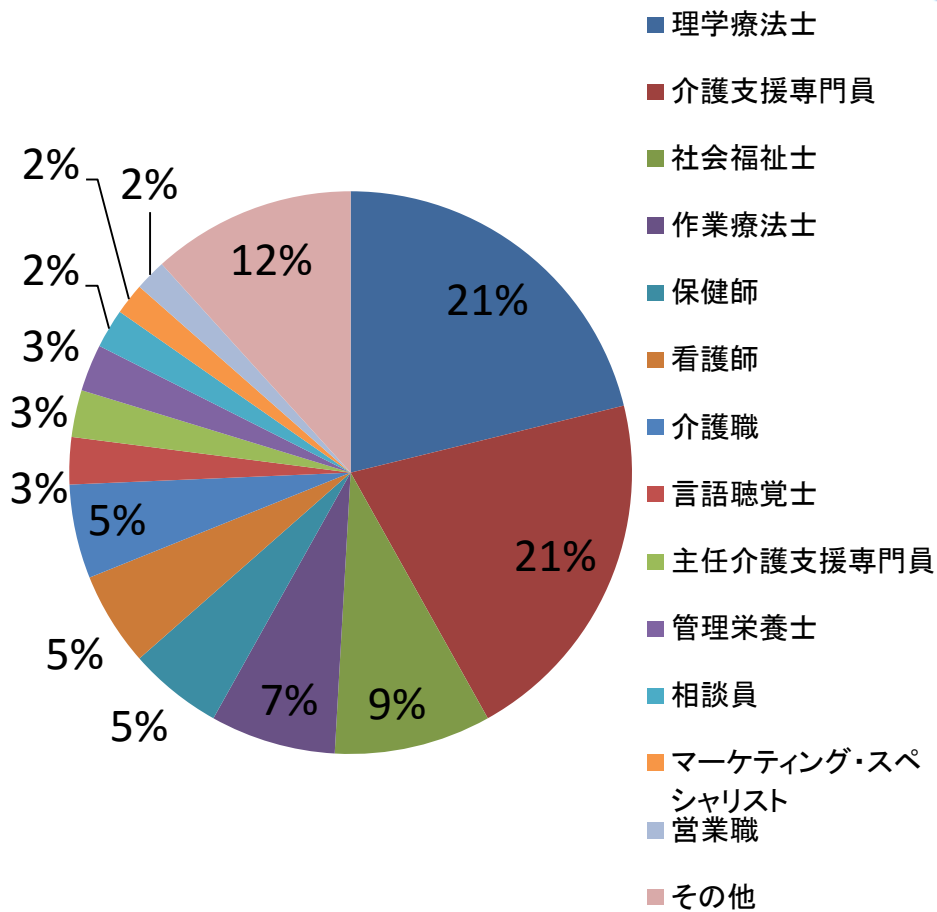
精神保健福祉士・住環境コーディネーター

市議会議員・行政職・営業職等



参加職種

参加業態



症例発表リレー

背景

- ・地域で活動をしている援助者は、自分達の関わる領域に対しての理解はしています。しかし自分達の関わりが少ない領域に関しての理解は十分とは言えません。また、対象者がどのようなサービスを受けて目の前にいるのか理解している援助者は多くはありません。
- ・急性期 → 回復期 → 生活期 → 急性期 ~ の理解を深める必要があると考えました。

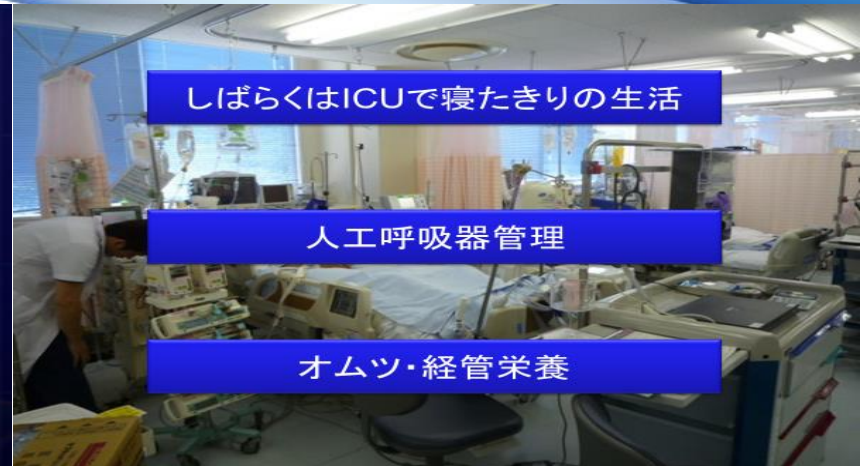
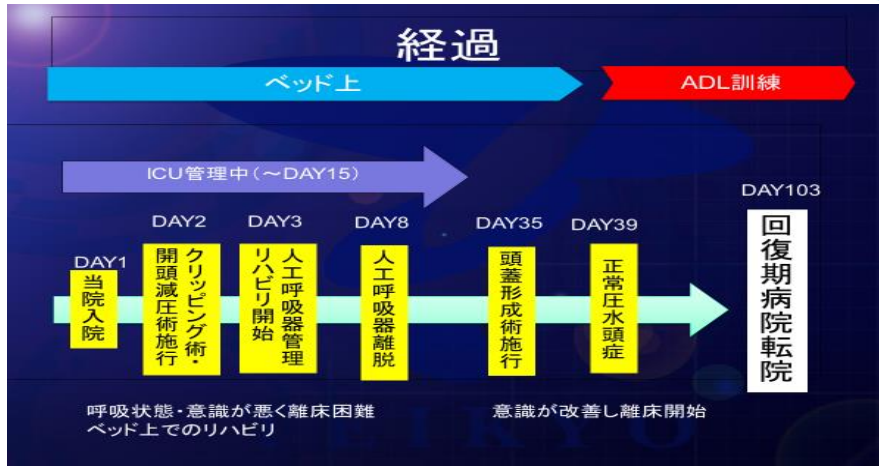
内容

- ・急性期、回復期、生活期のそれぞれ関わった病院・施設・事業所の症例発表
- ・専門的な検査データ等が中心ではなく、どのような考えがあり関わったのか。次の領域には何を望み、期待をして移行をしたのかを中心に発表



急性期

帝京大学ちば総合医療センター
轟木 まみ様

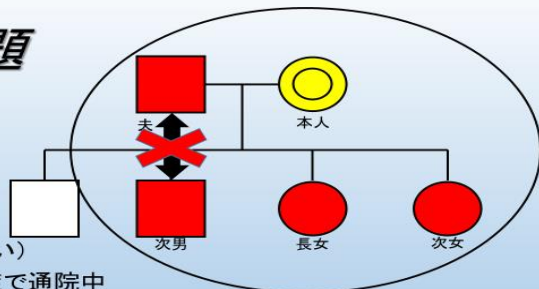


急性期ならではの生命予後の話や急性期時点での予後予測など発表して下さいました！急性期時点では食事摂取は難しい可能性があるという見解でした。

回復期

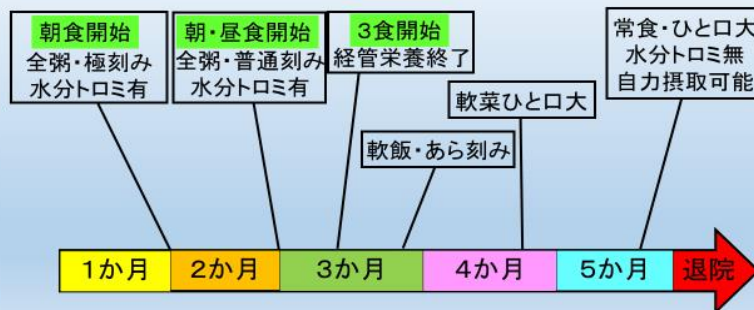
リハビリテーション病院さらしな
豊田 誠

家庭の問題



主介護者は夫と娘
(介護に対して自信がない)
長女・次女は統合失調症で通院中
(生活は自立してるが積極的な介護は難しそう)
次男は不定期に仕事があり、いないときもある(介護力はある)
今回ケースが発症したことにより、夫と次男は介護のことで不仲になっている
(どちらかが来院時はどちらかは来ない)

食事の経過



介助指導の経過



残存した問題点

- ・長時間の車椅子離床の拒否は最後まで強かった
- ・体重増加の危険性に対する認識不足
- ・生活の質(QOL)に対するアプローチは不十分

自宅退院は難しい状態でしたが、本人・家族の希望から自宅退院に向けリハビリに取り組んだことが説明されました。本人だけでなく、家庭の問題にも着目した症例でした。



生活期 ーデイサービスー

市原中央ケアセンターそよ風様



回復期退院時点で危惧されていた家族がいない事での不
穏が通所利用時も著明だったとの事でした。

しかし、徐々に環境に慣れ不穏が軽減してきている事が報
告されました！



生活期一居宅介護支援事業所一

アリスケアセンター様



在宅介護が難しい症例も、家族の努力と覚悟・そして周りのサポートがあれば介護可能であるということがわかる発表でした！



会の様子



会場は超満員で開始前に用意していた椅子では足りなくなる状況でした！

症例発表後に行われたグループワークではそれぞれの領域の考えを共有できる場となりました



症例発表リレー まとめ

- 急性期・回復期の発表者は生活期で想像以上の生活を送れていることに驚いていました
- ケアマネは退院後の生活を伝える機会があまりなく、互いの領域を知り、かつ、伝える事の出来る機会となりました
- 各領域を知る事の重要性を再認識する事の出来るちーき会となりました



総括

- 顔の見える関係をつくり、実際に意見交換をすることの重要性を再認識できました
- 皆さんのちーき会参加をお待ちしています！

